

下田まち遺産担当・小川レポート

利用者から学ぶ 古民家を活かすための創意工夫

下田市では、自然・歴史・文化・人の暮らしに関連する貴重な資源を下田市景観まちづくり市民会議で審議していただき、下田まち遺産にふさわしいと認められたものを認定しております。今回は、下田登録まち遺産の中でも実際の利用者に古民家を維持管理、活用していくための方法を伺いました。



@渡邊蔵

なまこ壁って全部同じだと思っていましたがそれぞれ違うんですね～！

みなさん工夫がいっぱい

天井が無いと
空間が広がりますね！



@鈴木邸

01 草画房

P10 参照

建物本来の力を取り戻す。

下田の歴史的な建物が軒を連ねるペリーロードに建つ草画房さん。書家である竹沢さんが30年前からアトリエ、16年前から土日のみカフェとして使用しています。竹沢さんが使用し始めた時の内装は新建材やサッシがはめ込まれていましたが、職人さんたちの協力を得ながら、古材や古い建具、古い瓦等を使い少しずつ元の姿に戻しているそう。また、このような空間を街歩きの後には体感してほしいと週末だけのカフェの営業を続けています。



家を建てられたときの形に戻そうと、自分で出来る範囲の作業をしている竹沢さん。不器用な私には難しいことを自然にやっているの、同じ女性としてとても素敵だと感じました。草画房では、何となくほっとする感じが有り、つい長居をしてしまいました。

土間だった入り口のスペースを板張りにしたテーブル席で竹沢さん(手前)の話を聞く小川。

手がかかるほど愛着が湧く。

安政の大津波の後に建てられてた建物は築150年を越えます。現在「土佐屋」を経営されている斎藤さんは、平成19年にお店をオープンしました。これまでインテリアデザインや施工の現場にいた経験を活かし、仲間と共にご自身で改装したそう。その後も、床が抜け落ちれば板を張り、隙間風が壁から入れば穴を塞ぎ・・・そんな補修が何年か続いたという。色々手直しすることも多くお金もかかるが、そんな建物でも愛着が湧くと斎藤さんは言う。



店内奥のテーブル席は畳の広間を解体して、斎藤さんがリメイク。



店先には斎藤さんならではの装飾が施され独特な雰囲気に。

とさや

02 土佐屋



斎藤さん(左)から話を聞く小川。

土佐屋の外観は歴史的な印象を与えますが、中に入ると別の世界に迷い込んだような気がしました。中はいたる所に写真が貼られていますが、思い出だけでなく古い建物ならではの隙間風を塞ぐために貼っていると聞き、斎藤さんの考え方に脱帽でした。



上／入り口すぐのカウンター席。右／平滑川の土佐屋外観。下見板張りの壁となまこ壁に情緒を感じる。



過去の助成メモ

● 平成23年度の台風被害にあった土佐屋の平滑川沿いの軒を修繕しました。

小川が考える 古民家活用のポイント①

- ☑ 大規模な改装はコストがかかるので、改装は最小限に抑える。
- ☑ 建物外観を元の状態から大きく変えない。
- ☑ 使いながら生活スタイルに合わせて変えていく。
- ☑ 自分の能力に応じて、できるところは自分で手直します。
- ☑ 自分流に楽しく改装する。



中庭に面した部屋には光と風が入ってくる。



襖を外し、3つの部屋をつなげたスペースを座敷席として利用。

過去の助成メモ

● 長年の風雨による老朽化や大雨被害によって破損した戸袋を平成24年度に修繕しました。

草画房 01

土佐屋 02

鈴木邸 03

渡邊蔵 04